

# 講中お知らせ 八月号

発行人桐本昌吾 / デザイン玉置實 \* 記事・画像の copy・download 転載引用等は禁じます。法華講相寺支部「講中お知らせ」編集室 0739-22-2232

## ○日如上人御指南

■昨今の新型コロナウイルス感染症による騒然とした国内外の様相を仏法の鏡に照らして見る時、その根本原因は邪義邪宗の謗法の害毒にあることを知り、今こそ私どもは全力を傾注して、一人ひとりの幸せはもとより、全人類の幸せと全世界の平和実現のため、一天四海本因妙広宣流布を目指して、破邪顕正の折伏を決然として実践していかねばなりません。



○大聖人は信心とは何か特別なことではなく、御本尊を一心に信じてお題目を唱えることに尽きる、と教えられています。

総本山第二十六世日寛上人は、『一心欲見仏』とは即ち是れ信心なり。『不自惜身命』とは即ち是れ唱題の修行なり、此れに自行化他有り、俱に是れ唱題なり(依義判文抄・六卷抄九九)と御指南です。

信心修行の肝要は、一途に御本尊を求める信心と、身命を惜しまず自行化他の唱題を実践することにある、と教示されているのです。

私達が第一に心掛けることは、恋慕渴仰の心をもって、自らお題目を唱え、そして人にも唱えていただけるようにすることです。

この自行化他の信心に精進するところ、巖然たる大功德が具わること確信し、毎日の唱題、毎日の折伏実践に挑戦してまいりましょう。

○大聖人は宗旨建立以来、「諸経は無得道 墮地獄の根源、法華経独り成仏の法なり」(如説修行抄673)との御確信のもと、諸宗破折の大鉄槌を振るわれました。

それはひとえに、「世皆正に背き人悉く悪に帰す。故に善神国を捨て相去り、聖人所を辞して還らず。是を以て魔来たり 鬼来たり、災起り難起る」(立正安国論234)と仰せのごとく、災難はもとより、あらゆる不幸の根本原因が、間違った信仰にあるからです。

本抄においても「正直捨方便、不受余経一偈」の経文をもって、方便・余経の一切を捨てた、妙法への純一な信仰を強く促されているのです。

令和四年八月度 御報恩御講

弘安三年五月十八日 五十九歳

『妙一尼御前返事』

夫信心と申すは別にはこれなく候。妻のをどくをおしむが如く、をどこの妻に命をすつるが如く、親の子をすてざるが如く、子の母にはなれざるが如くに、法華経・釈迦・多宝・十方の諸仏菩薩・諸天善神等に信を入れ奉りて、南無妙法蓮華経と唱へたてまつるを信心とは申し候なり。しかのみならず「正直捨方便、不受余経一偈」の経文を、女のかづみをすてざるが如く、男の刀をさすが如く、すこしもすつる心なく案じ給ふべく候。

(御書一四六七)

【通釈】そもそも信心というのは特別なことではない。妻が夫をいとおしく思うように、夫が妻のために命を捨てるように、親が子供を捨てないように、子供が母親から離れないように、法華経・釈迦・多宝・十方の諸仏・菩薩・諸天善神等を信じ奉り、南無妙法蓮華経と唱え奉ることを信心というのである。そればかりでなく、正直に方便の教を捨てる「余経の一偈をも受けない」と説かれる経文を、あたかも女性が鏡を大切に身から離さないように、男性が刀を身に帯しているように、少しも捨てる心を持たずに信心を行っていくべき。

□相手がいない」と口にする人がいます。相手がいないのではなく、折伏をする勇気がないのです。唱題を重ねれば、必ず勇気と慈悲の心が湧いてきます。八月は、全国的に盂蘭盆会が修されます。「万事を閑いて謗法を責むべし」(聖愚問答抄・402)との仰せどおり、縁ある人々の折伏に挑戦してまいりましょう。

## ■【私どもも総じては法華経の行者と言えるわけです】

8 御義口伝 建立(こんりゅう)御本尊等の事  
御義口伝に云はく  
此の本尊の依文(えもん)とは  
如来秘密神通之力の文なり  
戒定慧の三学  
寿量品の事の三大秘法是なり  
日蓮(たし)かに 靈山に於て面授(めんじゆ)口決(ぐけつ)せしなり  
本尊とは 法華経の行者の 一身の当体なり云云。  
(1773)

●法華経を説かれた釈尊をはじめ、一切衆生に仏性があるとして但行礼拝(たんぎょうらいはい)した不軽(ふきょう)菩薩や、あるいは像法時代に現れて法華経を弘めた天台大師、あるいは伝教大師も、法華経の行者であります。さらに、末法今時におきまして末法の法華経である 三大秘法の南無妙法蓮華経を信受し実践修行する者、

つまり私どもも総じては法華経の行者と言えるわけです。  
しかし、別しては『撰時抄』に「日蓮は日本第一の法

一、【一閻浮提第一の御本尊を 信じさせ給へ あひかまへてあひかまへて 信心つよく候ふて 三仏の守護を かうむらせ 給ふべし(諸法実相抄668)】



■「末代悪世(あくせ)の凡夫は 何物を以て本尊と定むべきや 答へて云はく、法華経の題目を以て本尊とすべし 所以(ゆえん)は何(い)かん 此の中に は已に如来の全身有(ま)しまし」等云云 法常なるを以ての故に 諸仏も亦常なり」云云(本尊問答抄1274)

●妙法蓮華経二十八品の題目が本尊です。この本尊の主題である中心の題目とは「南無妙法蓮華経如来」の事なのです。この「妙法」は「法華経二十八品」に「一切衆生の成仏の種」として埋められています。日々勤行の「寿量品」には特別にその事が秘沈(ひちん)されています。

●この法華経は最善・最高の「妙法」を教えています。この「妙法」は「蓮華」の教えです。それは、『確かに、逆境だけどネ。でもネ、ホラ、貴方様は「妙法の種」なのヨ。それを信じて！今生この度こそ、ココで、この「妙法の種」を「蓮華」のように咲かせましょう。』

●この「妙法」は最高の如来の説く、「成仏の種」です。諸法根源の法です。そこにピアノの音 ♪ があれば、そこに演奏者がいるのです。そこに「妙法」の教えがあれば、それを説く「如来」がましまして、そこに「仏」がいるのです。それは量子のような不可知のエネルギーであり、不可視の波動です。この「如来の仏力・法力」をしっかりと観じるのです。

二、■統一教会のように、旧・新の聖書から派生する一神教の妄想は外道の「魔境」です。これらの外道と祭政一致した、十字軍、ローマ、ナチス等は「魔界」に妄想した愚行の歴史です。同根に、今も戦闘ゲームの「無敵の強者」に脳がハマリ、洗脳されテロ行為に利用されているモノは多いのです。

●「人間の脳」は安易に流れ、より強い刺激に反応します。覚醒剤やアル中です。ここに洗脳が可能な「人間の脳のクセ」があります。ですから凡下の妄想は、更なる妄想世界を増産し続けます。この妄想は「脳のクセ」ですから「自滅」するまで止まりません。この外道に堕ちた狂ったサルたちは「魔境」から「ハルマゲドン」を妄想し、この破滅の恐怖から逃れるために銃を取り、一切衆生を「自滅」の核戦争にと誘うのです。

●功德体験として、現象世界に現前し転回する「妙法」は、そのままに「如来の神通力」の示現なのです。これを「無敵のワレ」と妄想すれば、大なり小なりここで洗脳されている「魔境」なのです。大聖人の「如来の世界の示現」とは「成仏の功德」を積める「修行世界」のことです。

●「日蓮は日本第一の法華経の行者なる事あえて疑ひなし」(撰時抄 864)と、法華経の大信受からの、大境涯と大実践を私達に教示なされています。大聖人に逢い習い「妙法の花」を今生に咲かせましょう。

■でも、私のような凡下は、臨終のその時まで刻々に難信難解でしょう。だから大事な事は、「成仏の功德」を積むには「妙法」に「唯南無」するだけなのです。そこにあるのは「唯南無妙法蓮華経」と合掌礼拝する「蓮華の命の己」だけなのですから。

●生命の意のママにならないクセから、悪道に堕ち、自壊し自死したりします。そこで外道の方、極楽浄土や天国の幻影に人々は多くハマるのです。そこに逃げようとする「脳のクセ」だからです。その上で、法華経は「だから信心」なのですヨと励まされます。

■せつかく希有な人間に生まれて、今生も逃げの人生に流れてしまい。終には心身が自壊し土に返る。今生もそんな三悪道の繰り返しでは、成仏の功德は積みません。「蓮華の花」は咲きたくても萎えてしましますヨネ。(;) )

●その境涯を向上なさいが仏法です。その実践の道は人間として覚悟がいり苦難です。それは、自他の成仏に、国土の成仏にと蘇生するお経だからです。そんな「仏法」

【お経回り】■コロナ禍で寺参りが難しいとお悩みの貴方様。住職は日々「お経回り・新聞配達」をしています。☎0739-22-2232